

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を深く捉えることについて課題がある。 ・複数の資料から情報を整理することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の相互関係や心情の変化などについて、描写を基に捉えて、内容を解釈する学習で読書の授業を充実させる。 ・情報の適否を見極めながら整理して読み進める授業を実践する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ①説明中心型の授業であること。 ②1時間ごとにぶつ切りで断片的な知識となりがちであること。 ③資料をもとに読み取ったり考えたりしたことを表現する活動を充実させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ①意図的に話し合う活動を授業に組み込んでいく。 ①ICTの活用の一層の推進を図る。 ②③「問いの構造化」と「単元を貫く課題」を意識した授業と評価（パフォーマンス的課題の実践と評価の継続）を実践する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・積み重ねが大切な教科ゆえ、苦手な生徒ほど毎日コツコツと学習に励む必要がある。 ・既習事項の内容を十分に復習する時間が必要であるが、授業内ではほとんど取ることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎クラスで毎回の授業の始めに、簡単な計算テストを毎時間行い、基礎学力の定着を目指す。また、家庭学習を充実させる。 ・授業内は難しいので、放課後に補充教室や質問教室を実施し、学習環境の改善を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら積極的に関わり、考え、探究していく力を育む必要がある。 ・既習事項の内容を確認する時間が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験では、これまでの既習内容を基に、体系的な視野をもたせて予想を立てるとともに、その結果から導き出される法則を推察できる能力を育む。 ・ICT機器を使用し、教材の提示だけでなく、ドリルなども活用して学習内容の定着を図る。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年では3年間の学習の基盤となる授業規律、基礎基本を身に付けさせる。 ・第2、3学年では自ら考え、学び合いの中から、表現力の一層の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップと少人数での学習形態を取り入れ、基礎基本の充実を図る。 ・範唱、範奏を例示しながら、楽譜や曲の聴取から作曲者の意図を読み取り、話し合う活動を通して、表現力の向上を図る。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の初期段階で考えがまとまらずに、作業に入るまで時間がかかる生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料の工夫や、スモールステップの設定を行い、生徒自身が計画性をもって表現に取り組めるよう環境を整える。鑑賞や発表においてICTを活用する。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、判断し、実践していく力を身に付ける必要がある。 ・体力の向上を図る。特に、都の平均と比較して、柔軟性、瞬発力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使用し、自己の動きを客観的に捉える機会を作る。 ・基本的な技能や知識を活用して、課題解決のために必要な取り組みを行う。 ・活動時間を多く確保することで、体力の向上を図る。また、準備運動にコーディネーショントレーニングを取り入れることで、瞬発力等の向上を図る。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 【技術】作業が遅れる生徒は、主体的に取り組む姿勢が低くなる傾向があるため、作業進度に合わせて丁寧な対応をする必要がある。 【家庭】作業に対する取り組みや課題の提出状況はおおむね良好であるが、発言をする生徒に限られる。作業進度の個人差への対応と学習のまとめりに学習内容の定着を確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【技術】見通しがもてる生徒には、相応の資料を用意し、難しい生徒に個別の支援を行い、作品を完成させる達成感をもたせることにより、興味・関心を高める。 【家庭】作業カードによる作業進度の把握と確認テストを実施する。作業進度に差が生じる場合は授業中の教え合い活動と放課後に個別学習を実施する。発言や発表の機会を増やし言葉で表現する力の向上を図る。
外国語（英語）	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年の4技能検定や3年生のスピーキングテスト、入試等で力を発揮できるようにすること。 ・他者やALTとの交流を通して自分の考えを深めたり視野を広げたりすること。 ・1度学習したことを忘れずに、次の学習へとつなげられるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で4技能を育成できるよう授業を組み立てる。生徒同士や対教員とコミュニケーションを取ることで技能を培えるよう工夫する。 ・小学校で学んだことを定着させながら、新たな技能や正しい文法を身に付けられるようにインプットとアウトプットのバランスを考えながら、授業内で実践する機会を設ける。